

変わりがトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp



十月・・・優勢のあなたに

十島村教育長 原口 英典

優か劣か/そんなことが話題になる、そんなすきまのない/つきつめた姿。持てるものを/持たせられたものを出し切っている/生かし切っているそんな姿こそ。



優か劣か、/自分はいわゆるできる子なのか、いわゆるできない子なのか、/そんなことを教師も子どもも/しばし忘れて、/学びひたり教えひたっている、/そんな世界を/見つめてきた。学びひたり/教えひたっている/それは優勢のあなた。ほんとうに持っているもの授かっているものを出し切って、



打ち込んで学びひたり/教えひたっている、そういう世界。/優勢を論じあい気にしあう世界ではない。



今はできるできないを/気にしすぎて、持っているもの/授かっているものを出し切れていないのではないか。

成績をつけなければ、/合格者をきめなければ、それはそうなのだ。/今の日本では教師も子どもも/力のかぎりやっていないのだやらせていないのだ。/優勢のなかで教師も子どもも/あえいでいる。



学びひたり/教えひたろう
優勢のあなたで (大村はま)

十島村のそれぞれの学校では、一学級の人数が少ないということで、複式学級で授業が展開されている。教える側も、教えられる側もそのハンディキャップを受け止めながら、それでもまさに個を生かすべく、自分を生かすべく、教え^{ひた}り、学び浸っている。

複式という現状をあえて受け入れる中での学びの世界は、だからこそその開花が必ず待っている。

【平成25年度地方教育行政功労者表彰】

永田幸男氏 (前十島村教育委員長) が、13年7か月という永年にわたり、本村小、中学校の教育の充実、社会教育の振興・発展に御尽力されたことが高く評価され、文部科学大臣より表彰されました。

【秋季大運動会開催】



9月22日(日)～10月12日(土)の間に村内各小中学校で秋季大運動会が開催され、深い感動に包まれました。口之島では、出身者(島内、島外)の参加のもと、「口之島たもとゆり会」(半田廣喜会長)より、口之島小中学校に優勝旗が寄贈されました。来年度は、全島でさらに多くの十島村関係者の参加を期待したいと思います。

【コンクール受賞】

「第50回記念南日本硬筆展」:12名

<悪石島小学校>:3名

西 えほん(小3), 鶴長 俊太郎(小4)
鶴長 璃子(小6)

<宝島小中学校小宝島分校>:9名

優秀賞: 森 清香(小3), 森 文音(小6)
早川 千穂子(中3)

推薦賞: 岩下 孟司(小3), 森 祐太(中1)

金賞: 東 桃香(小3), 東 真優(小5)

銀賞: 有馬 蓮(小4)

銅賞: 有馬 凜(小3)



灯

「バイバイ！」みんなの声が遠ざかっていく。わたしは今年の四月に小宝島に来ました。「し、自然が多すぎる・・・。」それが、小宝島に来て、最初に思ったことです。



小宝島に来て、あともうちょっとで半年。分校のみなど遊ぶことが多くなりました。大阪で目のわるか

ったわたしは、ちょっとずつ目がよくなってきているように感じます。

この小宝島の好きなどころは、温せんです。温せんは、海水の水で、飲むとしょっぱいです。温せんに入ると、かたこり、すりきず、虫さされ、あせもがなおります。海の近くにあり、波の音を聞きながら入ることができるわたしの安らぎの場所でもあります。いろんな人が入るので、人との会話も楽しめます。もっと、もっと、いろんな人に会い、いろんな話をしたいです。そして、小宝島のことをもっともっと好きになりたいです。



絆

シリーズ——山海留学生として学ぶ

島の贈り物 ①

志方 悠希 現在高1年生<鹿児島市> (諏訪之瀬島)

ぼくが諏訪之瀬島に来て、もう四年が経つ。義務教育最後の卒業式を迎え、島を旅立つ。と同時に、山海留学という時間も終わる。

そもそもぼくが山海留学をした理由は二つある。

一つは、自然を体で味わうことだ。鹿児島市内ではなかなか味わうことのできない膨大な自然の素晴らしさや、たくさんの種類の生き物たちに囲まれて過ごしてみたいという思いがあったからだった。



もう一つは、自分の体と心を鍛えることだ。体力もスポーツも経験もない自分の体、そして甘えのある自分の心を鍛えるためだ。

諏訪之瀬島に来たあの日から僕は本当に成長したと思う。一目で変わってるといのが自分でも分かるぐらいだ。それをやり遂げられたのは日々の努力のおかげだと思う。毎日の朝のランニングや部活などの体力作り。御岳登山や海での水泳教室など、自然とのふれあい。そして、分校で児童生徒会長になったときに学んだ、責任ある行動をとること、協力して物事を進めていくことなど、島で生活してきた全てのことが自分に身についているのだ。ぼくは、こんなにたくさんのことを経験できるなんて思ってもみなかった。(11月号に続く)

【子どもたちの作品】

(弁論大会小学部優秀賞)

みんなそろって福德家 ①

平島小学校3年 福德 凌牙

はじめにぼくの家族をしょうかいします。ぼくの家族は7人家族でパパ、ママ、お姉ちゃんの羽音は小学5年で、お兄ちゃんのりゅうくは小学4年でぼくは小学3年で弟のこたろう、じゅれんがいます。弟はまだ小さいので学校には来れません。



だから弟たちはぼくたちが学校から帰ってきていっしょにあそんでくれるのを楽しみにしています。ぼくも兄弟であそぶのがとても楽しいです。

ある日の金曜日ぼくたちが家に帰ると、じゅれんが車からおちて頭がきれていました。だからかご島に行きました。そして、こたろうがママにおまもりをあけていました。

ママとじゅれんがいなくなって学校から帰ってくると家がにぎやかになりませんでした。それからぼくが家をにぎやかにしようとしてもむりでした。家がずっと静かでした。だけど、こたろうがみんなをはげましてくれました。そして、毎日毎日ママとじゅれんのことが心ばいで頭の中はママとじゅれんのことしか考えていませんでした。それから三日たって帰ってきました。



(11月号に続く)

十島村の小・中学校からのメッセージ ②

口之島中学校 教諭 永吉 康弘

私の口之島への赴任が決まった際、周囲の反応は、「病院は?買い物は?」といったものが大半でした。私自身、家族五人の生活を考えると、多少不安になったのも事実です。しかし、その一方で、「うらやましいなあ、代わりたいたいなあ」という反応もありました。これらは、過去、十島村の各学校に勤務された経験のある先生方の声です。「先生にとっても、先生の家族にとっても一生の宝物になる」という言葉に送られての赴任でしたが、あれから一年半、「一生の宝物」という言葉の意味を実感しながらの毎日を送っています。



子どもたちと触れあうなかで、最も考えさせられることは、これまでの自分自身の生徒への接し方です。私は、小学生を対象にした授業は行いませんが、行事や部活動等で小学生と接する機会が多くあります。その際、小学生に指示を出しても、全く動き出そうとしない子どももいます。「言葉の意味がわからない、どうすればいいかわからない」とキョトンとしているのです。最初の頃は、なぜこんな簡単なことがわからないのだろう、できないのだろうと、もどかしく思うことがありました。



しかし、これまでの自らを省みたとき、「私の言葉の意味がわからないまま『ハイ』と返事をしていた生徒がたくさんいたのではないかと。本当は、授業の内容が理解できていない生徒もたくさんいたのに、その生徒に目を向けようとせず、理解できているものとして授業を進めてきたのではないかと自分の伝える力の拙さ、未熟さを痛感させられました。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ



私もいつの日か、この口之島を離れ、どこか別の学校に勤務することになります。そのとき、十島村への赴任が決まった同僚の先生に、「一生の宝物になるよ」と言える教員になれるよう、十島村での教育を通して、自分自身をもっと磨いていきたいと思います。